

公益社団法人 地盤工学会関東支部



Newsletter

Kanto Branch of Japanese Geotechnical Society

持続可能な未来社会のために

関東支部副支部長 栃本 泰浩
(一社)関東地質調査業協会会長
(川崎地質(株)代表取締役社長)



はじめに：2020年4月に関東支部副支部長に就任した栃本泰浩（とちもとやすひろ）です。大阪市出身で、テレビのカラー放送が始まった頃に生を受け、高度経済成長期に学生時代を過ごしました。現在の大学入学共通テストに通じる「共通一次試験」の元年に受験し、地元の大学で地質学を学びました。

なぜこの仕事に：生まれ育った地域は、第四紀の海水準変動に伴って内湾～湖沼～泥湿地と変遷を繰り返した場所で、少しまとまった雨が降ると度々床下まで浸水しました。透水性の低い軟弱地盤を埋め立てて造成した動水勾配の殆ど無い土地は水はけが悪いことを実感し、下水道の整備により生活環境が激変したことを覚えています。大学時代に、地域の地形・地質や大阪城築城などの歴史・文化の関わりを深く知るにつれ、身近な生活と自然環境の関わりについて益々大きな関心を抱くようになりました。それが転じてこの業界に入職し、これまで土木事業・防災事業に広く携わってきました。

持続可能な社会：近年は地震や降雨に伴う土砂災害・洪水災害が頻発しています。被災すると、「まさか、此処で、こんなことが起こるとは・・・」とよく聞こえてきます。これは普段の日常生活で災害を身近に感じることなく、正常性バイアスが働くからと言われる。備えを万全にしても必ず大規模地震や豪雨が発生しますので、いざというときに正しく的確な行動を執ることがとても大切です。私たちは地盤工学の探求とともに、そのような意識・行動を促すアウトリーチ活動に注力する必要があります。最近、サステナビリティやSDGsなど、将来世代にとって持続可能な社会を構築することが人類共通の課題となっています。企業・業界・学協会の枠を超えて、各領域の専門

家がそれぞれの専門性を発揮するだけでなく、互いの連携・協力なくしてその実現は難しいと思います。

地盤情報の特徴と取り扱い：一般に土木事業は、計画・調査・設計・施工・維持管理の各段階を経て進捗します。地盤と接しない土木構造物はなく、地形・地質に係る情報は事業の各段階で常に共有され、活用されるべきものです。ただしこれらの情報は、地上構造物と異なり、①土質・地質は金属・コンクリート等と比べて極めて不均質な性状を持つ、②地質・地盤モデルは点や線の限られたデータからその分布（地質構成・地質構造）を推定していることに、留意が必要です。昨今は3次元モデル化が必須となりつつありますが、地上構造物と地下の地盤では、モデルを形成する材料の性状や分布のばらつきが大きく異なるのです。そこで、モデルの精度を上げるために、できるだけ良質な調査データを取得するのはもちろんのこと、調査データに基づく合理的な空間分布の推定方法、不均質さを工学モデルに置き換える方法、それでもなお不透明な部分をきちんと後続事業段階に伝達していく方法などが重要となります。このような地質・地盤に係る不均質さが事業に及ぼす影響を「地質リスク」と呼んでいます。事業に係る関係者全員がこの共通概念を認識し、適切な段階で地質リスクを低減する、あるいは対処する方策を考えるといったリスクマネジメントが必要となります。

初心忘るべからず：最近の学生の採用活動を通して、「防災・減災」に関心を持つ方が多いと感じます。「困っている人の役に立ちたい」という志は、土木建設業に係る仕事をしていく上でとても大切です。是非、初心を忘れずに、正面から困難に立ち向かっていただきたい。災害が発生したときに大切なのは、現場で起こっていることを、自然のしくみを踏まえて地形・地質的観点から正しく理解することです。全く同じ条件下の災害発生はなく、それぞれの現場に答えがあります。私たちの仕事は経験工学と言われますが、一人ひとりの専門家が知見を深め、学協会等を通して切磋琢磨し、学問や業界自身が成長していくことが大切です。未来社会では、専門家の知見を集めて機械学習を行い、AIがある一定レベルまでの判断材料を提供するようになるかもしれません。予防保全に大いに役立つのではないかと感じます。

おわりに：概念的な話になってしまって恐縮ですが、関東支部の活動がこのような切磋琢磨の場になることを期待し、またそのために微力ながら尽力して参りたいと思います。私たちの子孫が「良い社会を築いてくれた」と思うような足跡を残していきたいと思います。

東日本大震災 10 周年企画～語り継ぐ 地盤技術者たちの記憶～ 開催報告

関東支部 会員サービスグループ
幹事・小林 優起 (川崎地質(株))
幹事・山口 恵美 (関東学院大学)

2021年3月11日をもって、東日本大震災の発生から10年が経過しました。

震災発生後は多くの技術者が調査に向かい、各地の被害の状況を明らかにしていきましたが、当時小学生～大学生であった今の学生や若手技術者の多くは、当時の様子を知らない状況にありました。

会員サービスグループでは、発生当時の様子や現地の調査状況等を後世に伝えることを目的として、冒頭の講演会を開催いたしました。講演会には、地震発生後すぐに調査に行かれた7名の講師をお招きし、当時利用した調査技術や手法、その工夫点や改善点等についてご講演いただきました。また、講演会の冒頭では、関東支部長 菊池喜昭先生(東京理科大学)より、参加者の皆様へご挨拶をいただきました。なお、本企画は、これまで会員交流の一環として開催してきた「ジオテク語りべ会」の特別企画として開催し、8月中旬から下旬にかけて全3回にわたるシリーズ企画として開催いたしました。

【各回の講師と講演タイトル】

開催日	講師	講演タイトル
第1回 令和3年 8月19日	吉田望 先生 (関東学院大学 防災・減災・復興学研究所 研究員)	津波に遭遇してからの生活
	安田進 先生 (東京電機大学 名誉教授)	直後は情報が皆無だった液状化の11日間の調査
第2回 令和3年 8月25日	東畑郁生 先生 (東京大学 名誉教授・関東学院大学 客員教授)	東日本大震災から10年たって想起すること
	佐々木康 先生 (広島大学 名誉教授)	地盤被害の初動調査 (河川堤防)
第3回 令和3年 8月31日	若松加寿江 先生 (関東学院大学工学総合研究所 研究員)	東北地方太平洋沖地震による液状化発生地点の悉皆調査
	中井正一 先生 (千葉大学 名誉教授)	東北地方太平洋沖地震による液状化被害と今後に向けての対策
	時松孝次 先生 (東京工業大学 名誉教授 (株)東京ソイルリサーチ)	東北地方太平洋沖地震津波による女川の建物転倒被害とその要因分析

本講演会は新型コロナウイルス感染対策として Zoom ミーティングを用いた完全オンライン形式で実施しましたが、第1回：141名、第2回：151名、第3回：145名と、3日間で延べ437名もの方々にご参加いただきました。

講演後のディスカッションでは、講演内容に関する質疑応答のほか、聴講者からの当時の様子や教訓に関する質問について、講師の先生に答えていただきました。また、講師と当時の調査を共にした方々からは、内輪話も交えながらお話をいただきました。

ジオテク語りべ会は、シリーズとして今後も開催予定です。多くの皆様にご参加いただき、世代を超えた会員同士の交流の場となることを願い、これからも企画していきたいと思っております。

思川開発事業南摩ダム建設工事の見学会 開催報告

関東支部 栃木県グループ
幹事・清木隆文（宇都宮大学）

1. はじめに 独立行政法人水資源機構では、思川(おもいがわ)開発事業として思川の支川、南摩川に南摩ダムを建設し、洪水調節を行うとともに、思川支川の黒川、大芦川と南摩ダムを導水路で結び、水を融通しつつ効率的に水資源開発を行う事業を進めている。栃木県グループでは、令和3(2021)年10月18日(月)に水資源機構のご厚意でロックフィルタイプのダム堤体の岩盤基礎部分とTBM(Tunnel Boring Machine)で掘削が進められている送水トンネルおよびシールド工法で掘削が開始されようとしている導水路トンネルの建設現場を見学させて頂く機会を頂いた。この度の見学会は、新型コロナウイルスの蔓延防止のための緊急事態宣言などが解除された直後でもあり、慎重に開催するために定員を制限し、栃木県グループおよびその関係者のみを参加対象として募った。参加者は7名であった。

2. 見学内容の紹介 見学会当日は、前日までの雨が嘘のようで快晴に恵まれ絶好の現場見学日和となった。水資源機構思川開発建設所からは竜澤所長、阪元副所長をはじめとする5名の職員の方々が見学会の実施に対応し、現場間の移動にはバスを提供いただいた。特に今回の見学は地盤工学会からということもあり、各所で地質に関連した資料や岩石試料をもとに丁寧な説明を受けた。参加者からの質問についても丁寧に対応して頂いた。南摩ダムは、コンクリート表面遮水壁型ロックフィルダムとしては国内ではじめての本格的なもので、堤高86.5m、総貯水容量5100万 m^3 の規模で、令和6(2024)年度に完成を目指して建設が進められ、工事はあと約2年半で完了する予定とのことであった。現在、ダム基盤となる岩盤掘削が行われてい。見学会当日は、ダムを支える砥石型頁岩とチャートの基盤岩の岩相(写真-1)、ダム堤体上流側の基盤を掘削して設置される監査廊であるプリンスの工事を見学させて頂いた。ダム堤体を支える堅牢な岩盤の露頭を見学する良い機会となった。広大な建設現場の中で、今後、ダム堤体建設地から上流にある原石山から玄武岩主体に採掘し、堤体を盛り立てる過程について説明を受けた。ダム本体の工事現場から下流には比較的近いところに民家も点在し、小学校もある等、大規模な建設現場が人々の生活に近接した場所にあり、人々の日常生活とともにある現場であった。また現在、思川の支川である黒川、大芦川の流量が多い時に南摩ダムに導水し、一方、黒川、大芦川の流量が少ない時に南摩ダムから水を補給するための約13kmの導水路・送水路トンネルの工事も進められており、今回、大芦川取水放流工の工事現場(写真-2)も見学させて頂いた。

3. おわりに この度は、水資源機構思川開発建設所のご厚意で、コロナ禍の中、限られた時間ですが、多岐にわたるダム建設工事を地質に重点を置き見学させて頂く良い機会となった。



写真-1 ダム基盤を上流側から臨む集合写真



写真-2 大芦川取水放流工の建設の様子

第 18 回関東支部発表会（GeoKanto2021）の開催報告

関東支部 支部発表会グループ
リーダー幹事・小峯秀雄（早稲田大学）

第 18 回関東支部発表会（GeoKanto2021）が、令和 3 年 10 月 22 日（金）に開催されました。昨年度から続くコロナ禍の状況において、「交流の機会を提供すること」を目標とし、オンライン開催での準備を進めました。意見交換会や交流会を Zoom より会話しやすい Spatial Chat を用いて開催し、対面時にロビーで会話するイメージや立食パーティー感覚で交流が図れるようにしました。コロナ禍における新しい交流の場を提供できたと考えております。

発表概要については、昨年度より 400 字程度の要旨へと変更しておりますが、今年度はその要旨に図を付けることで理解しやすくなるよう変更しました。発表会は、JGS 会館に 8 つのオンライン会場を設け、一般発表 157 編と研究委員会の活動報告が行われました。聴講者を含めた約 370 名の方にご参加頂き、例年通りの優れた発表と活発な議論となりました。また、小学 5 年生による素晴らしい口頭発表がおこなわれましたので、副支部長特別賞を授与いたしました。ディスカッションセッションでは、「無機系吸水性材料を用いた土の改質技術の利活用に関する研究委員会」より、「無機系吸水性材料を用いた土の改質技術に関する手引き」の暫定版の紹介や吸水性改質土に関する話題提供がなされ、活発な討論が行われました。近年実施しております、スポンサー企業様の技術紹介の場を本年度も設けました。技術紹介をはじめとするスポンサー応募には延べ 39 件の申し込みがあり、例年にも増して発表会の運営に多大なご協力を頂くことができました。スポンサーに応募して頂いた企業様・団体様には、この場を借りて厚く御礼を申し上げます。

また、今年度の特別セッションは、東北地方太平洋沖地震から 10 年の節目であることから、震災やその復興に携わった経験について、土木研究所の谷本俊輔様、清水建設株式会社の齋藤諒平様、鹿島建設株式会社の清谷一旗様、株式会社不動テトラの日下部真佑様を講師にお招きしてご講演いただきました。今年度は「建設業が職業として社会にどのように貢献しているのか」ということを若手や学生に興味を持ってもらうことをテーマとして実施いたしました。

最後になりますが、発表会の準備・実施にあたり、菊池支部長をはじめとする多くの関東支部の方々にご指導とご支援を頂きました。特に支部発表会グループの皆様には献身的な働きをして頂きました。ここに感謝の意を表したいと思います。

GeoKanto2022 は 2022 年 10 月の開催を予定しております。会員の皆様の積極的なご参加と企業・団体の方々のスポンサーへのご応募をお待ちしております。



写真-1 交流会での支部長挨拶の様子

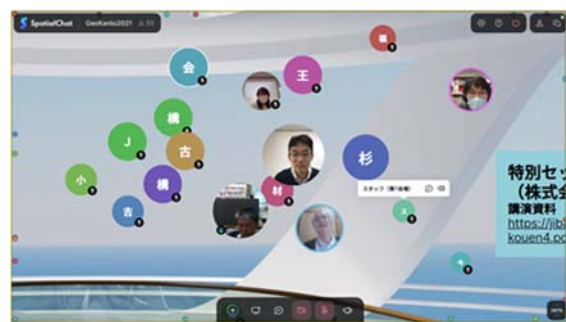


写真-2 SpatialChat による交流会の様子



写真-3 会場運営の様子



写真-4 運営スタッフの集合写真

回数	年度	開催場所	参加者数	論文数
第 1 回	2004	東京都文京区 (JGS 会館)	53	26
第 2 回	2005	茨城県水戸市 (茨城大学)	86	52
第 3 回	2006	神奈川県横浜市 (関東学院大学)	205	111
第 4 回	2007	群馬県前橋市 (県市町村会館)	187	126
第 5 回	2008	千葉県船橋市 (日本大学)	174	117
第 6 回	2009	栃木県宇都宮市 (県総合文化センター)	232	147
第 7 回	2010	埼玉県さいたま市 (大宮ソニックビル)	194	131
第 8 回	2011	山梨県甲府市 (びゅあ総合)	184	132
第 9 回	2012	東京都江東区 (日本科学未来館)	402	197
第 10 回	2013	東京都江東区 (日本科学未来館, 東京国際交流館)	約 310	186
第 11 回	2014	東京都江東区 (日本科学未来館, 東京国際交流館)	約 300	170
第 12 回	2015	東京都江東区 (日本科学未来館)	約 300	163
第 13 回	2016	東京都江東区 (日本科学未来館)	約 300	142
第 14 回	2017	栃木県宇都宮市 (栃木県総合文化センター)	329	145
第 15 回	2018	東京都渋谷区 (国立オリンピック記念青少年総合センター)	約 230	125
第 16 回	2019	東京都渋谷区 (国立オリンピック記念青少年総合センター)	約 204	103
第 17 回	2020	Zoom によるオンライン発表	約 280	144
第 18 回	2021	Zoom によるオンライン発表	約 370	157

副支部長兼 グループリーダー	小峯秀雄 (早稲田大学)		
学術部会	リーダー: 大坪正英 (東大)	藤原覚太 (東海大)	日下部真佑 (不動産)
	栗原朋之 (中央開発)	白石彩華 (大林組)	野々山栄人 (防衛大学校)
総務部会	リーダー: 野田翔兵 (理科大)	西岡英俊 (中央大学)	栗本悠平 (清水建設)
	陳金賢 (応用地質)	藤本達貴 (鹿島建設)	斎藤日向子 (アサヒ大成基礎 ENG)
	美野輪皇士 (小野田ケミ)	青木美智子 (地盤工学会)	
県連絡委員	松島亘志 (筑波大)	後藤 聡 (山梨大)	早野公敏 (横浜国大)
	清木隆文 (宇都宮大)	内村太郎 (埼玉大)	山中光一 (日大)
	蔡 飛 (群馬大)	鎌尾彰司 (日大)	

第 18 回 地盤工学会関東支部発表会 優秀発表者賞

セッション名	発表者 (所属)	論文題目
	受賞コメント	
構造 1	木梨 優太 (中央大学)	「スパイラル杭の施工時の周辺地盤の乱れが引抜き抵抗に及ぼす影響に関する模型実験」

この度は第 18 回地盤工学会関東支部発表会において、優秀発表者にご選出いただき、誠にありがとうございます。本研究では、スパイラル杭の貫入時の周辺地盤の乱れの有無による、供用時の引抜き抵抗力の違いについての検討を行いました。今回、賞を頂いたことを糧に、引き続き研究に努めてまいります。最後に、本研究を行うにあたり、ご指導いただきました西岡先生をはじめとする関係者の方々に深く感謝申し上げます。

構造 2	樋口 駿之介 (中央大学)	「ジオグリッド補強土技術における盛土材選択の重要性に関する一考察」
------	------------------	-----------------------------------

この度は第 18 回地盤工学会関東支部発表会におきまして優秀発表者賞にご選出いただき、大変光栄に存じます。本研究では、ジオグリッド補強土技術における盛土材選択の重要性に関して検討を行いました。今回、優秀発表者賞をいただいたことを糧にして、今後の研究活動も精進してまいります。末筆になりますが、本研究を行うにあたりご指導いただきました平川大貴教授や佐倉拓歩先輩をはじめとする関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

構造 3	迫本 和也 (早稲田大学)	「土質力学的アプローチによる二枚貝の斧足動作の評価および斧足動作を規範とした砂貫入実験に関する研究」
------	------------------	--

この度は優秀発表者賞にご選出いただきありがとうございます。元々この研究は機械工学分野の研究でしたが、小峯先生のご厚意により共同研究させていただき運びとなり今回の学会発表に繋がりました。異分野融合であるこの研究が今回のような賞を賜うことはこの上ない喜びです。本研究を発表するにあたり、指導教員である石井先生、共同研究にお誘いいただいた小峯先生、そして様々なアドバイスを下さった伊藤先生を初めとした関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

構造 4	須藤 皓介 (群馬大学)	「城壁の地震時挙動を再現するための振動台実験と動的弾塑性 FEM」
------	-----------------	-----------------------------------

この度は優秀発表者賞にご選出いただき、誠にありがとうございます。本研究では、城壁の崩壊メカニズムの解明や補強工法の検討をするために行われた振動台実験を、FEM を用いて再現することを試みました。今後、研究活動により一層精進することを誓うと共に、指導教員である若井明彦教授を始め、研究に関わっていただいた全ての皆様に心より感謝申し上げます。

構造 5	佐野 和弥 (東京都市大学大学院)	「空石積擁壁の補強効果に関する遠心場載荷実験」
------	----------------------	-------------------------

この度は第 18 回地盤工学会関東支部発表会におきまして、優秀発表者にご選出いただき大変嬉しく存じます。本発表では、遠心場にて補強空石積み擁壁の背面地盤を載荷することにより、補強材に発生する断面力等を確認し、擁壁の変形挙動を報告させていただきました。最後になりましたが、この場をお借りし日頃からお世話になっている伊藤和也教授をはじめとする東京都市大学地盤研関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

構造 6	池田 昂史 (中央大学)	「ジオグリッド補強土への破碎コンクリートの適用性に関する検討」
------	-----------------	---------------------------------

この度は第 18 回地盤工学会関東支部発表会におきまして優秀発表者にご選出頂き、大変光栄に存じます。本研究では平面ひずみ試験を実施してジオグリッド補強土への破碎コンクリートの適用性に関する検討についての報告をさせていただきました。末筆になりますが、本研究を発表するにあたり、指導教員である平川大貴教授をはじめ、研究室、関係者の皆様にこの場をお借りして心より感謝申し上げます。

構造 7	綱井 裕史 (早稲田大学)	「砂質土および関東ロームの締固めにおける加速度センサによる応答特性経時変化に関する研究」
------	------------------	--

この度は優秀発表者にご選出いただき、大変光栄に存じます。本研究では、ICT 土工の一環として、ランマーに加速度センサを取り付けて締固めを行い、その加速度応答を分析することで、土の状態量を推定いたしました。既存研究の少ない、新しい研究でしたが、皆様から頂戴した意見をもとに今後も成

果をあげてまいりたいと思います。最後に、本研究を発表するにあたり、ご指導ご鞭撻賜りました関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

防災 1	王 昭程 (東京都立大学大学院)	「稲城砂の定常状態に及ぼす細粒分の影響」
------	---------------------	----------------------

この度は第 18 回地盤工学会関東支部発表会におきまして優秀発表者にご選出いただきありがとうございます。本発表では、稲城砂の定常状態に及ぼす細粒分の影響について報告させていただきました。今回、賞をいただいたことを糧にして今後も精進して参ります。本研究を発表するにあたり、指導教員である吉嶺充俊教授をはじめとする研究室の方々には貴重なご意見やご助言を賜りましたこと、ここに厚く御礼申し上げます。

防災 2	Sukhumkitcharoen Rawiwan (東京大学)	「The influence of liquefaction history on local void ratio characteristics」
------	------------------------------------	---

First of all, I am honored to have been selected as an excellent presenter at the 18th Kanto Branch Presentation (GeoKanto2021). It was a great experience for me to be one of the participants in the supportive presentation-and-discussion environment related to the geotechnical field with many experienced researchers and engineers. I hope that my research topic on re-liquefaction will make some contributions to society in the near future. Finally, I would like to express my sincere gratitude to Professor Junichi Koseki, Asst. Prof. Hiroyuki Kyokawa, and other lab members who have been involved in my research.

防災 3	西野 風雅 (中央大学)	「上載圧を変化させたアルミ棒積層体模型地盤の単純せん断試験～せん断弾性係数の拘束圧依存性およびひずみレベル依存性に関する検討～」
------	-----------------	--

この度は GeoKanto2021 におきまして優秀発表者賞にご選出いただき、誠に光栄に存じます。本研究では、上載圧の変化が周辺地盤の挙動に与える影響についての研究を報告させていただきました。今回いただきました賞を励みとし、今後も邁進し参ります。最後に、指導教員である西岡英俊教授をはじめ関係者の皆様には数々のご指導、ご鞭撻を賜りましたこと、ここに厚く御礼申し上げます。

防災 4	吉原 隆 (宇都宮大学大学院)	「模型盛土斜面の崩壊実験による火山灰質粗粒土の粒子破碎挙動の観察」
------	--------------------	-----------------------------------

この度は第 18 回地盤工学会関東支部発表会におきまして優秀発表者賞にご選出頂き、大変光栄に存じます。本発表では火山灰起源の土の粒子破碎性に着目し、模型振動台実験により盛土斜面崩壊時の粒子破碎挙動の観察を行いました。本賞を励みに、今後も精進して参ります。最後に、振動台実験実施に伴いご指導頂いた日本大学 仙頭紀明教授、指導教員である宇都宮大学 海野寿康准教授をはじめとする関係皆様に心より御礼申し上げます。

防災 5	一瀬 健太郎 (東京理科大学大学院)	「基礎地盤と杭の剛性が鋼管杭式補強防波堤の抵抗特性に与える影響」
------	-----------------------	----------------------------------

この度は第 18 回地盤工学会関東支部発表会におきまして、優秀発表者にご選出いただき誠にありがとうございます。本発表では、鋼管杭式防波堤補強工法における基礎地盤や杭剛性の違いが及ぼす影響を報告させていただきました。今回の発表の場で頂戴した貴重なご意見を今後の研究の糧にたく存じます。また、指導教員である菊池喜昭教授をはじめ、関係者の皆様には数々のご指導ご鞭撻賜りましたこと、ここに深く御礼申し上げます。

防災 6	Li Yuanying (群馬大学)	「Risk evaluation of seismic slope failure based on the cooperation of terrain analysis and finite element analysis: a case study of the Kamishiro Fault Earthquake in Nagano Prefecture in 2014」
------	-----------------------	--

I am really honored to be one of the recipients of the 優秀発表者賞 of GeoKanto2021. In this study, based on the cooperation of terrain analysis and finite element analysis, risk evaluation of seismic slope failure was performed to analyze the causes of disasters. I really appreciate the advice and comments I received, which will be of great help to my research and improvement in the future. At the same time, I am very grateful to my supervisor, Professor Wakai Akihiko and co-author, Kimoto Yusaku-san for their help.

防災 7	日吉 優米 (山梨大学)	「振動台を用いた地震時のテフラ層における水分保持特性」
------	-----------------	-----------------------------

優秀発表者にご選出いただき光栄に思います。本発表では、2018年北海道胆振東部地震で発生したテフラ層をすべり面とする地すべりの機構解明を目的に、振動台実験によって得られた成果を報告しました。発表するにあたりご指導いただいた、後藤聡先生、本学の地盤工学研究室各位に深く感謝いたします。本受賞ならびに発表の場で頂戴した貴重な意見を励みに、研究に邁進していきます。

環境 1	浅野 太我 (茨城大学大学院)	「土の異方透水性評価装置の開発」
------	--------------------	------------------

GeoKanto2021において優秀発表者賞に選出していただき、大変光栄です。地盤という流体・粒状体・気体からなる複合的で特異的なものに対して、同世代があらゆる課題について様々な面から挑戦していることを改めて実感しました。100年後はどのような会になっているのかを想像すると、研鑽を積みたいたいと思わされます。最後になりますが、小林薫教授、意見交換して下さった皆さま、ありがとうございました。

環境 2	岩崎 充希 (早稲田大学)	「燃料デブリ中間保管施設に活用する超重泥水の作製に用いるベントナイトの熱特性評価」
------	------------------	---

この度は第18回地盤工学会関東支部発表会におきまして、優秀発表者賞にご選出いただき誠にありがとうございます。本研究では超重泥水の作製に使用されるベントナイトに注目し、乾燥密度と熱伝導率の相関関係について報告させていただきました。今回の発表で頂きました貴重なご意見を参考に、今後も研究に勤しんでいきたいと考えております。最後にご指導いただきました研究室の皆様様に心より感謝申し上げます。

材料 1	横山 大智 (東京大学)	「小型空洞保持試験による砂質地盤内空洞の安定性に影響を与える要素の検討」
------	-----------------	--------------------------------------

この度は第18回地盤工学会関東支部発表会におきまして、優秀発表者にご選出いただきありがとうございます。前例のない小型模型を用いた研究であり、壁面の影響や計測手法の妥当性など検討すべき課題も数多く残されていますが、今回の発表会でいただいた様々なご意見をもとに、研究に邁進して参ります。最後に、本研究の実施、発表にあたり、多くのサポートをいただきました研究室や関係者の皆様様に感謝を申し上げます。

材料 2	曹 基安 (早稲田大学)	「膨潤圧を指標とするベントナイト系緩衝材の飽和・密度状態のモニタリング技術の提案」
------	-----------------	---

この度は優秀発表者賞にご選出いただきありがとうございます。不飽和ベントナイトの水分拡散特性について発表させていただき、今後の研究につながるような質疑をいただくことができました。また、他の発表者の皆様の興味深い研究を聴講ですることでもでき、大変有意義な発表会となりました。本発表をするにあたり、指導教員である王海龍准教授をはじめ関係者の皆様には数々のご指導、ご鞭撻を賜りましたこと、ここに厚く御礼申し上げます。

材料 3	後藤 聖也 (茨城大学)	「堤体法面に施工した扁平な破碎貝殻の配向方向が堤体法面の侵食変形に与える影響」
------	-----------------	---

この度は第18回地盤工学会関東支部発表会におきまして優秀発表にご選出いただき誠にありがとうございます。本研究は、扁平な破碎貝殻の粒子配向が堤体侵食抑制効果に及ぼす影響を土槽実験により明らかにしたものです。今後は、破碎貝殻層の抵抗力に与える粒子配向の影響を解明していくと共に貝殻型CBの社会実装に向けて貢献していく所存でございます。

末筆になりますが、研究立ち上げからご指導いただいた小林薫先生をはじめ、各種ご協力を頂いた研究室の方々に心より御礼申し上げます。

材料 4	姜 浩然 (筑波大学)	「Bi-disperse granular flow down an inclined plane studied by 2D discrete element simulations」
------	----------------	---

この度は優秀発表者賞にご選出頂きありがとうございます。本研究では、粒状体の斜面上の流れ挙動について、二次元個別要素法を用いて検討した結果を報告させていただきました。本研究を発表するにあたり、指導教員である松島亘志教授をはじめ関係者の皆様には数々のご指導、ご鞭撻を賜りましたこと、ここに厚く御礼申し上げます。

今後の展望 計測技術 1	劉 偉晨 (鹿島建設 (株))	「チャンバ内土砂の塑性流動性センシング技術の開発」
<p>この度は優秀発表者賞にご選出いただきありがとうございます。本研究では、泥土圧シールドチャンバ内の可視化技術の開発についてご報告させていただきました。また、他の発表者の皆様の興味深い研究を聴講ですることでもでき、大変有意義な発表会だと考えました。最後になりますが、関係者の皆様からご指導ご鞭撻賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。</p>		
今後の展望 計測技術 2	謝 沛宸 (東京大学)	「送水流量と挿入速度に着目した小規模凍結セルフボーリング管の挿入による地盤の乱れ」
<p>この度は優秀発表者賞を頂き、大変光栄に存じます。この研究は、高品質な地盤不攪乱試料を採取するため、現在開発している一般的な地盤調査にも適用可能な小規模凍結サンプリングを想定して、セルフボーリング式凍結管の挿入に生じる周辺地盤の乱れに着目して実施した土槽試験の結果を報告しました。ご指導賜りました清田准教授をはじめ、研究室と基礎地盤コンサルタンツ株式会社の皆様に深く御礼を申し上げます。</p>		
今後の展望 計測技術 3	唐崎 遥平 (東京大学)	「北海道安平町の地盤陥没跡地を事例とした表面波探査による地下空洞探査可能性の検討」
<p>この度は優秀発表者にご選出いただき、大変光栄に思います。本研究では、過去に地盤陥没が発生した場所で表面波探査を行い、土地固有の陥没要因や表面波探査による地下空洞探査可能性について考察しました。発表の場で頂戴した貴重なご意見を励みに、さらに研究に取り組んで参ります。ご指導いただいた桑野玲子先生をはじめ、研究に関わっていただいた全ての皆様に心より感謝申し上げます。</p>		
副支部長 特別賞	鈴木 泉輝 (茨城大学教育学部附属 小学校 5年)	「センサーや UAV を活用した小学校での防災教育」
<p>私の発表を聞いていただきありがとうございました。パソコンの調子が悪いという事もありましたが、先生方からじっと見守っていただいたり、励ましの言葉を頂けたので、成功させることが出来ました。先生方からの質問では少し意味が分からなかったこともありましたが、やさしく説明して頂けたので答えることが出来ました。これからは、ハザードマップを作ったり防災について研究していきたいと思いました。初めてでしたけど終わった後も沢山のコメントを頂けたのでほっとしました。大学生に混じって賞まで、本当にありがとうございました。</p>		

逗子市新宿自治会防災デー2021 共催 開催報告

関東支部 神奈川県グループ
リーダー幹事・早野 公敏（横浜国立大学）

2021年11月23日、神奈川県逗子市新宿会館において、逗子市新宿自治会防災デー2021（共催：逗子市新宿自治会、（公社）地盤工学会関東支部神奈川県グループ、後援：横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院）が開催されました。

防災デーには、自治会員を主体として約40名の住民が参加しました。初めに篠田昌弘氏（防衛大学校准教授・（公社）地盤工学会関東支部商議員）、小倉章氏（（一社）地盤品質判定士会神奈川支部幹事・神奈川県地質調査業協会技術委員長）、稲垣景子氏（横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院准教授）が斜面防災、都市・地域防災について連続講演を行いました。その後、地域が抱える防災上の課題について、住民の方々とともにディスカッションを実施しました。ディスカッションでは地震時の津波・斜面の複合災害の可能性や避難の在り方、危険な斜面の見分け方や維持管理方法などについて熱心な討議が行われました。

2時間30分休憩なしの連続にもかかわらず、住民の方には集中力とぎれることなく熱心に参加して頂きました。また講師の先生方には非常に分かりやすく説明して頂きました。この場をお借りして御礼申し上げます。最後の質疑応答では質問が途切れることなく活発なイベントになりました。住民の方の防災意識の高さに感動しましたが、今後は逗子市や神奈川県などの行政とも連携して、一層の取組みを推進できればと願っております。



写真・1 講師による講演の様子

【行事報告】

日程	行事名称	場所
2021.08.19 2021.08.25 2021.08.31	会員サービスグループ：東日本大震災10周年企画「～語り継ぐ地盤技術者たちの記憶～」	オンライン
2021.09.15	後援行事：2021 環境防災セミナー（環境・防災・コロナ禍・AI）	オンライン
2021.10.18	栃木県グループ：思川開発事業南摩ダム建設工事の見学会	栃木県
2021.10.22	第18回地盤工学会関東支部発表会（GeoKanto2021）	オンライン
2021.10.23	共催行事：神奈川県グループ「逗子市新宿自治会防災デー2021」	会場とオンラインの併用
2021.12.11	後援行事：令和3年度“彩の国”市民科学オープンフォーラム「災害につよいまちづくり」	埼玉大学全学講義棟とオンラインの併用
2022.02.28	共催行事：茨城大学CNオープンセミナー特別企画シンポジウム「気候変動対応を通じた地域の活性化」	会場とオンラインの併用
2022.04.25	特別講演会「土の締固め-古い課題の新たな展開-」	オンライン
2022.05.18 2022.05.25	共催行事：第2回技術者講座「最近の防災・減災技術」	茨城県産業会館とオンラインの併用

ゴシックの行事報告を本号でご紹介しています。また、これまでの行事報告については関東支部のホームページでご覧ください。

【行事予定】

日時	行事名称	場所
2022.06.30	「既存杭の撤去・埋戻し方法とその影響を受ける新設杭の設計・施工」 新設杭に干渉する既存杭の撤去に関する研究委員会報告会	オンライン
2022.07.06	「第3回ジオテク語りべ会～昭和・平成を駆け抜けたベテランが令和に語り継ぐ～」	オンライン
2022.12.08 2022.12.09	「土の締固め管理の合理化に関するシンポジウム」	オンライン

行事予定の最新情報については関東支部のホームページでご確認ください。

関東支部では、メーリングリストにご登録頂いた会員の皆様に行事案内を随時お知らせしております。登録をご希望の方はお名前、会員番号、メールアドレスを明記の上、E-mail：kantouevent@jiban.or.jp または FAX：03-3946-8699 までお申し込み下さい。

（中島 進：企画総務グループ 幹事）

発行 公益社団法人 地盤工学会関東支部 〒112-0011 東京都文京区千石 4 丁目 38 番 2 号 JGS 会館内 TEL 03-3946-8670 E-mail：jgskantou@jiban.or.jp URL: https://jibankantou.jp
